

# キャンパス点描

## オープンキャンパス2012を開催しました ……………



7月14日(土)～16日(月)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。連日の猛暑の中、6,000名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

全体説明会では、羽入佐和子学長から躍進するお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて耳塚寛明教育機構長から多様な入試制度、お茶大の特徴的な教育プログラムである「複数プログラム選

択履修制度」や「文理融合リベラルアーツ教育」、本学独自の奨学金、学生寮等についての説明がありました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、模擬授業や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが用意され、ピンクのTシャツを着た学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者から活発な質問が飛び交っていました。

来年も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。



## 岩手県教育委員会及び宮城県気仙沼市教育委員会などと …………… 相互協力に関する協定を締結しました

お茶の水女子大学は、岩手県教育委員会など東日本大震災で被災した8つの県や市町村の教育委員会と、震災復興に向けた多様な取組に関して相互に協力し合い、児童生徒の育成や地域社会の復興・発展に寄与することを目的として、7月18日(水)に包括的連携協定を締結しました。

### 連携協定を締結した教育委員会

岩手県教育委員会及び岩手県内(野田村、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市)の各教育委員会及び宮城県気仙沼市の各教育委員会とも連携協定を締結しました。

### 協定締結の経緯

お茶の水女子大学は、2011年11月に「東日本大震災被災地支援プロジェクトチーム」を立ち上げるとともに、「東日本大震災の被災地に対する支援方針」を定めました。

### 東日本大震災被災地支援方針

- 1.被災地のニーズに合致した効果的な支援であること。
- 2.大学が組織として行う支援であり、お茶の水女子大学の特性を生かした支援であること。

3.中長期的な展望のもと、計画的な支援を行うこと。

4.学生が参加する場合は、ボランティアな意志を尊重し、安全を図るとともに学生の成長に資する支援を行うこと。

この方針に基づき、岩手県教育委員会と共同して予め被災地のニーズを調査した上で、サイエンス&エデュケーションセンターが中心となり、津波と地震で破壊された現地の小・中学校の理科教育支援活動を展開してきました。

今後更に実質的な支援活動を活性化させていくため、この度、岩手県教育委員会と復興支援に関する包括的な連携協定を締結することになりました。

### 岩手県大槌町仮設中学校での理科室の様子



お茶大から送られたガスバーナーで、実験ができるようになった!

### 教員研修を、ネット環境で実施する方法を開発 2011年11月から開始

#### 受講生側



スピーカーと大きなモニターで受講する受講生

iPad Face Time使用  
iPadにはスピーカーと液晶プロジェクターを接続



#### 講師側

## 本学卒業生黒田玲子さんが ..... 2013年度「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」を受賞!



日本を代表する化学者であり、お茶の水女子大学理学部化学科卒業生の黒田玲子さん(くろだ・れいこ、東京理科大学総合研究機構教授、東京大学名誉教授)が2013年度「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」を受賞しました。

今回の受賞は、遺伝子や蛋白質など自然界に存在する“分子のキラリティー”(左右対称性)現象が重要であることを明らかにし、有機・無機化合物ばかりではなく、ア

ルツハイマー病などの幅広い応用研究にもつながる多大な貢献を成し遂げたことによるものです。

2013年で15周年を迎える同賞は、1998年にロレアルとユネスコが世界規模で女性科学者の地位向上を目指すべく創設されて以来、科学分野の発展に貢献した女性科学者72名が受賞しています。今年度は「物理科学」の分野でめざましい業績を挙げている世界の優れた女性科学者5名を発表しました。また、2008

年の米国受賞者エリザベス・ブラックバーンと、欧州受賞者アダ・ヨナットは、それぞれ2009年ノーベル医学・生理学賞およびノーベル化学賞を受賞するという快挙を遂げており、同賞は「女性のノーベル賞」ともいわれています。

2013年3月28日にパリのユネスコ本部にて開催される授賞式において、賞金100,000USドル(約800万円)が授与されます。

4ページに  
関連記事

### 「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」

本学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程理学専攻の工藤まゆみさんが、第7回「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を受賞された記事を掲載しました。こちらの賞は、日本の若手女性科学者が国内の教育・研究機関で研究活動を継続できるように奨励することを目的として創設されました。

同年度に本学関係者がこれら2つの賞を受賞したことは、大変喜ばしく名誉なことであるといえます。

## 国際シンポジウム「日米のワーク・ライフ・バランス ～ジェンダー・格差センシティブな視点から～」を開催しました

7月1日(日)・2日(月)の2日にわたり、「ワーク・ライフ・バランス」をテーマとした国際シンポジウムを開催しました。このシンポジウムは文部科学省・日本学術振興会委託事業『ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調査』(研究代表者:永瀬伸子)がワーク・ライフ・バランス実現可能な社会を目指すために行った、日米の子育て世代の男女に対する独自調査の結果の発信と、米国からお招きした講師とともに日・米両国が抱える問題(女性の就労継続が困難なこと、広がる所得格差、男性の家事・育児参加がしにくい就労環境と家族的責任差別など)についてディスカッションを行いました。両日とも企業の人事担当者など大勢の社会人の方々にご参加

いただき、働きやすい制度について、ともに考えました。

シンポジウム・日米調査結果の概要はプロジェクトホームページにてご覧いただけます(「WORKFAM」で検索または、<http://www.dc.ocha.ac.jp/gender/workfam/index.html>)。



キャンパス点描